



学校だより

川原っ子

令和6年3月15日
高岡市立川原小学校
最終号

新たな環境へ～かわらないもの、それは温かな家庭

校長 森田 芳栄

わが子が産まれたその瞬間、何ともいえない幸せな気持ちと、自分にかけてあげられないものができた、何があっても守っていかうという責任感が心の中にあふれました。特に2人目の子のときは、昔なら母親の方の命が危なかったのではないかという経験をしましたので、子どもも母も生きていること、ただそのことへの感謝だけでした。元気でいてくれさえすればいい、そう思いました。保護者の皆様もきっと似たような気持ちになられたのではないのでしょうか。毎日がドラマで、大きくなるまでいくつもの喜びや苦しみがありました。小さい頃は、シンプルに、日ごと大きくたくましく成長していく姿に喜び、そして育児の難しさに悩みました。でもそんな悩みはかわいらしいものでした。年齢を重ねてから（子どもも）の悩みや苦しみは、歳に比例して大きく複雑、それも三人三様でした。子にも立派に感情がありますから、一緒に苦しんだり悲しんだりもしました。元気であれば、と願ったはずなのに、欲も出ます。分かってやれなかつたりぶつかつたりもし、お互いが不安になったり焦ったりもしました。もっと一生懸命に話を聞いてやればよかった、あのとき何も言わずにそばにいてやるだけでよかった、と、考えると後悔の雪だるまです。しかし、自分なりに困難に立ち向かい、乗り越えていってくれたことには子への感謝しかありません。きっとそこには、まわりの多くの友達や先生の温かい支えがあったにちがいません。



さて、前置きが長くなりましたが、こんな落第点の親である私からの保護者の皆様へのお願いです。保護者の皆さんもお子さんが4月から元気に新小学校に行ってくれるか心配なこととお察しいたします。周りの環境が大きく変化する子どもたちにとって変わらないものがが必要です。それは、これまで同様に温かい家庭です。「元気でいてくれれば、それでいい」と願ったあの瞬間を忘れず、その子なりの成長を見守り認めてあげていただきたいと思います。これまで1クラスで、目をつむっていても隣にだれがいるか、何を考えているか分かるような関係の中で過ごしてきた子どもたちにとって、新しい環境に慣れるには時間がかかることでしょう。また、平気そうに見えても、表現できない子もいるはずで、歴史と伝統ある3つの小学校が集まって一つの文化や伝統をつくっていくのですから、最初からうまくいくはずがありません。当然、ぶつかるでしょう。悩むでしょう。どうかその子なりの悩みに寄り添ってあげてください。すぐに親が原因を決めつけたり、答えを与えたりして子供に依存するのではなく、子どもの力を信じ、自立の手助けをしてあげてください。家庭は子どもにとっての安全基地です。他と比べるのではなく、その子なりの得意・不得意をまるごと受け止め、認め励ましてあげてください。

違いは豊かさ一。これまでとは違った多くの価値観に出合う子どもたち。違いを認め合い、尊重しながら合意形成を図っていくことでしょう。川原小学校で培った『熱意』『誠意』『創意』の川原っ子プライドを、より一層輝かせてくれると、私は信じています。

最後になりましたが、閉校までのこの一年間、保護者の皆様、地域の皆様には、本校の教育活動に多大なるご支援とご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。川原の地域に愛されながら子供たちは高岡西部小、中学校へ旅立ちます。いただきましたご恩を地域に返ししながら、子供たちは元気に過ごしてくれると信じています。今後とも、子どもたちのことをよろしく願いいたします。